

平城宮跡第146次発掘調査現地説明会資料

— 推定第一次朝堂院南方の調査 —

昭和58年 3月 5日

奈良国立文化財研究所

平城宮跡発掘調査部

杉山 洋

はじめに

平城宮跡発掘調査部では、推定第一次朝堂院地区の解明のため、その東半部を中心として第27次調査（昭和40年）以降、第140次調査（昭和57年）に至る各調査を行ってきた。その結果推定第一次朝堂院地区は、北に大極殿地区、南に朝堂地区を置くことが明らかとなった。朝堂地区は、東西215m（720尺）、南北285m（960尺）の区画のなかに、東西2棟ずつ計4棟の南北棟建物が並ぶ構成に復原できた（第3-4図）。今回の調査は推定第一次朝堂院地区の東朝集殿推定地区において行なった。調査面積は約3100㎡で、現在なお調査進行中である。

I 遺構

今回調査した地区は、推定第二次朝堂院地区に伸びる丘陵から派生した、小支丘の東南部に位置する。そのため調査区の旧地形は、東南に向ってゆるやかに傾斜している。平城宮時代の遺構は、旧地形を整形・整地した後に築かれている。

今回検出した主な遺構は、掘立柱建物5棟、南北溝2条、竪穴住居跡8棟、周溝状遺構1条などである。

※平城宮造営以前の遺構 竪穴住居跡7棟と多数の土壌がある。いずれも4世紀後半から5世紀前半の土器が出土している。SB09は周溝を周溝状遺構SD12が囲み、東南部では道路状遺構が東へ伸びている。平面規模は約5m×4mで床面4ヶ所に柱穴がある。SB10、SB11と重複しておりそれらより古い。SB14は平面規模約4m×4m、深さ約0.5mで、床面に炉跡と思われる炭化物の集積がある。出土した土師器からSB09と同時期の竪穴住居跡であることがわかる。SB06、SB07は重複しており、配置から見てSB07がSB06、SB08より古い。

※平城宮時代の遺構 大きくA・Bの2時期に分かれる。

A期 推定第一次朝堂院区画の建設前の時期である。SD3765はこの時期における宮中央部の基幹排水路である。素掘りの溝で幅約2.0m、深さ約1.0mである。埋土は3層に分かれ、中・下層がA期に属する。

B期 SD3765以東の地域に2回にわたる整地が行なわれ、遺構は整地層上から掘り込まれる。SD3715は素掘りの南北溝で、幅約3.0m、深さ約0.4mである。SD3765に代わる宮中央部の基幹排水路として機能するが、SD3765も完全に埋められず、上層がこの時期に相当する。SB01、SB02は南北棟掘立柱建物でSB01は桁行5間、梁行2間。SB02は桁行7間以上、梁行2間である。重複があり、SB01からSB02へ建て替えられている。この建て替えに伴って第2次整地が行われる。整地に伴ってSB01の北方に、須恵器の甗等が大量に廃棄されている。SB03は梁行2間の東西棟掘立柱建物と考えられる。SD3715廃絶後に建てられており、SB01、SB02より新しい。SB16、SB17についてはSB03と同時期か、さらに新しくなる可能性がある。

II 遺物

※平城宮造営以前の遺物 竪穴住居跡や土壌からは、4世紀後半～5世紀前半の土師器が出土した。周溝状遺構SD12付近と土壌SK15からは不明土製品が出土した。住居跡と同じ時期のものであろう。

※平城宮時代の遺物 2条の南北溝や整地層などから、平城宮時代の土器や瓦が出土した。SD3765からは遺物の出土がすくなかったが下層・中層から推定第一次朝堂院地区で多量に用いられたものと同じ軒丸瓦（6284 8世紀初頭）が出土している。上層からは推定第二次朝堂院地区で多量に用いられたものと同じ軒丸瓦（6225 8世紀前半）が出土している。SD3715からは小面積ながら大量の土器、瓦が出土している。土器には「菓料」「内大炊口人」と記す墨書土器2点がある。SB01の北方で出土した土器群には、須恵器15個体、須恵器坏蓋1個体、土師器皿13個体以上がある。

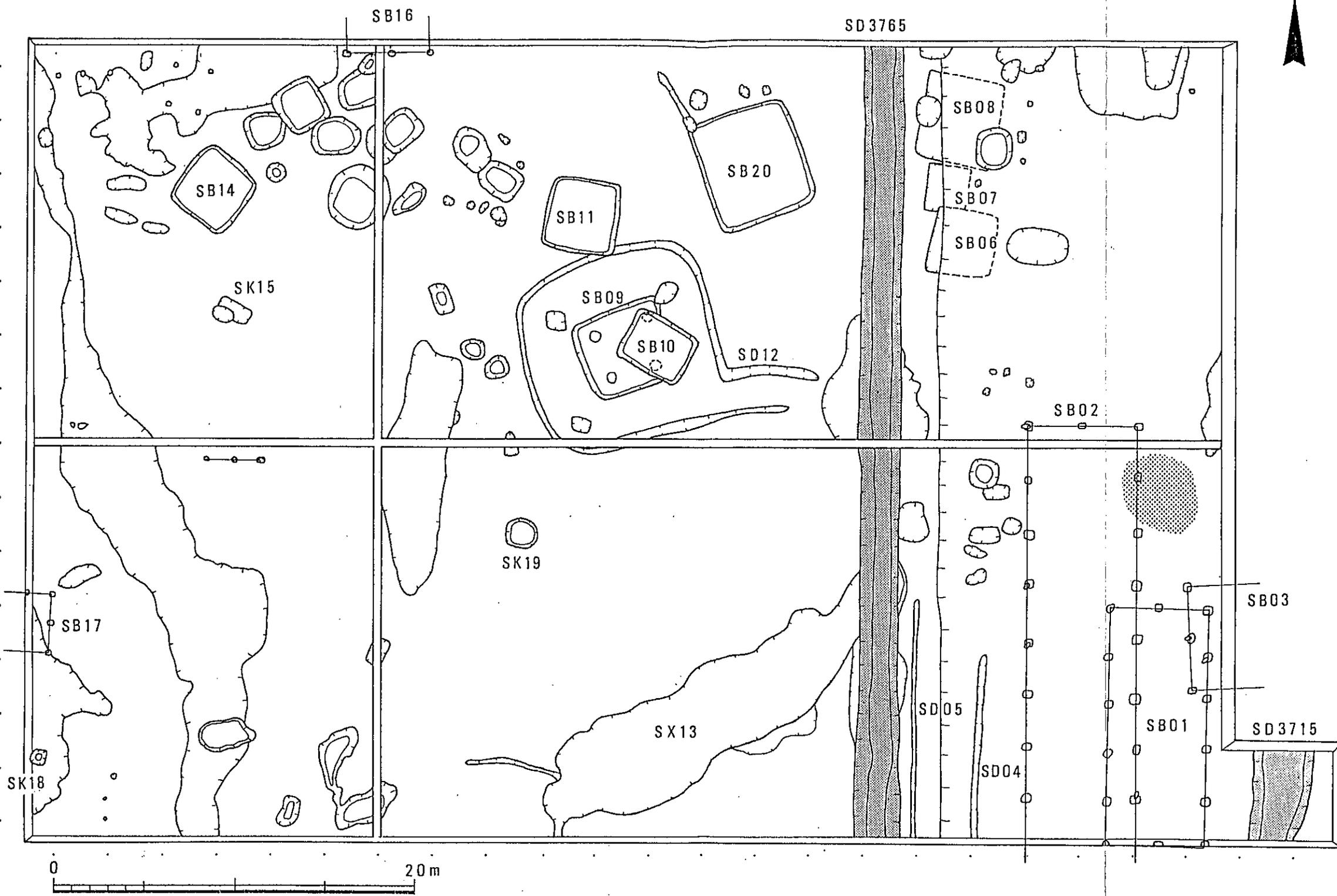
III まとめ

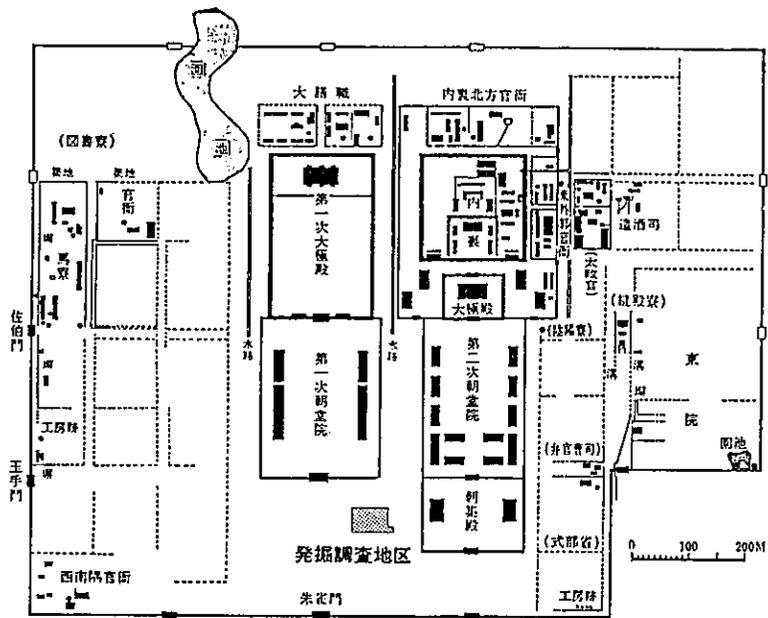
今回の調査によって明らかとなった成果は下記の3点にまとめられる。

1 今回の調査区内では、東朝集殿に相当する建物遺構は検出されなかった。今後本調査区の南北で調査を行う計画であり、その結果に期待するところが大きい。

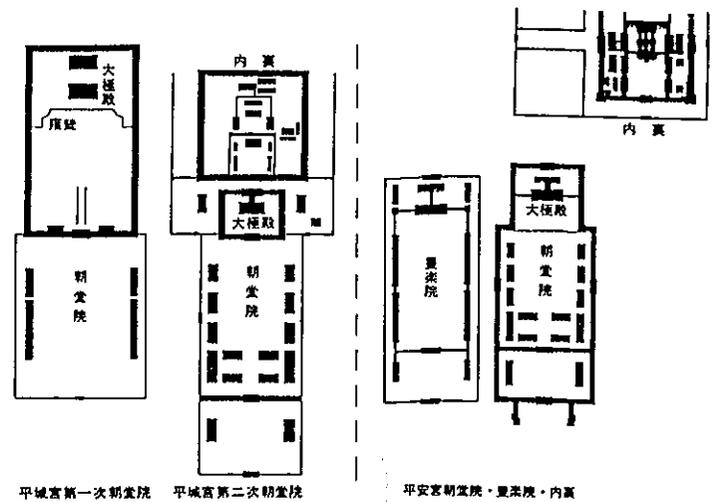
2 奈良時代後半には、推定第一次朝堂院地区と推定第二次朝堂院地区にはさまれた細長い地区に官衙が営まれる。本調査区北方の第136次、140次調査でも掘立柱建物が検出されており、第140次調査では彈正台の可能性が指摘されている。本調査区の南北棟掘立柱建物SB01、SB02も、一連の官衙地区を構成する建物であろう。

3 推定第一次朝堂院地区にのびる小支丘上には、古墳時代中頃の遺構が点在している（図3-3図）第27次調査区では掘立柱建物2棟が、第75次調査区では方墳1基が検出されている。第140次調査区では、今回発見された竪穴住居跡と同時期の住居跡4棟が検出されている。この小支丘上には、平城宮の造営以前に集落が営まれていたものと推定される。

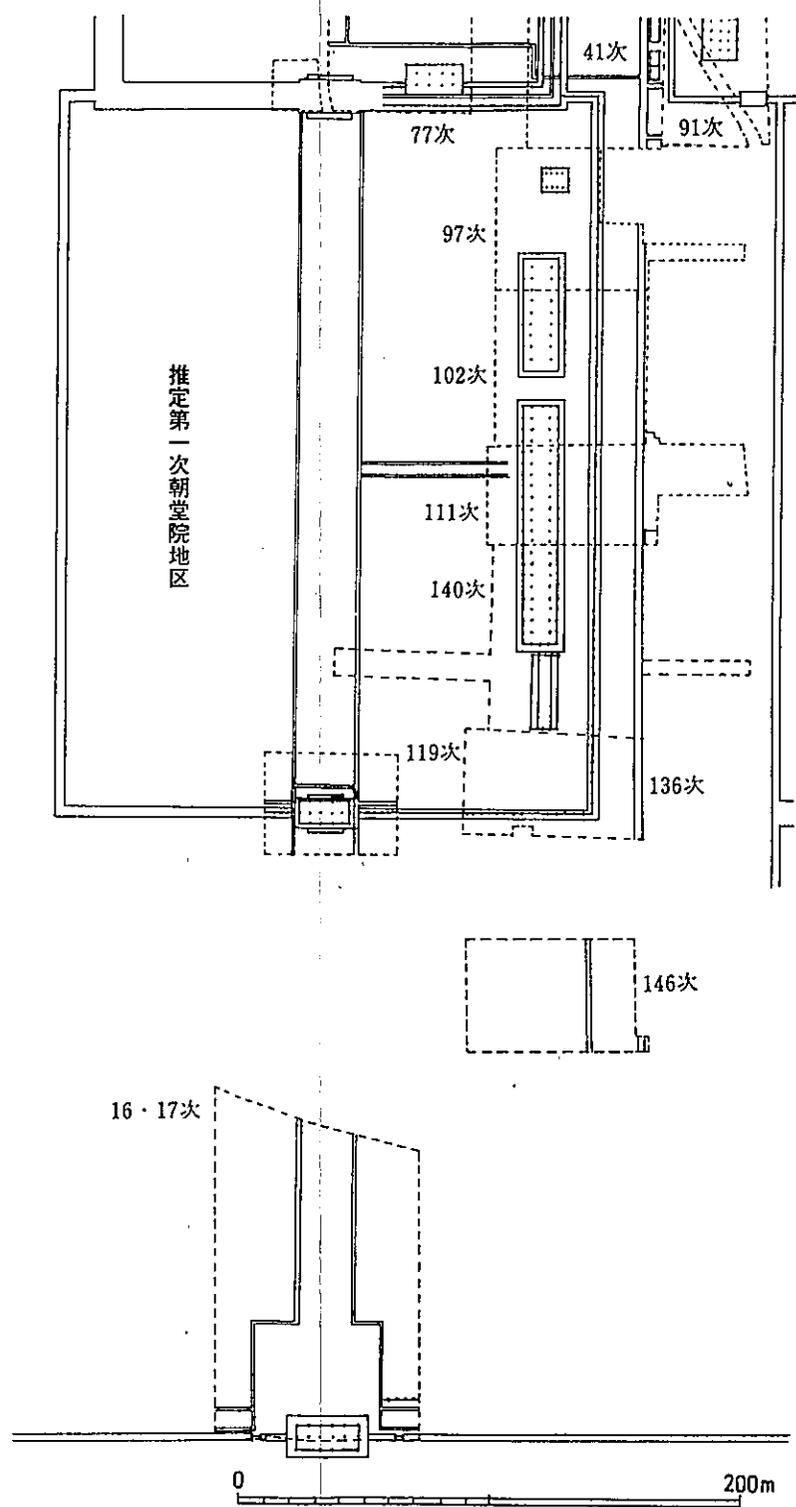




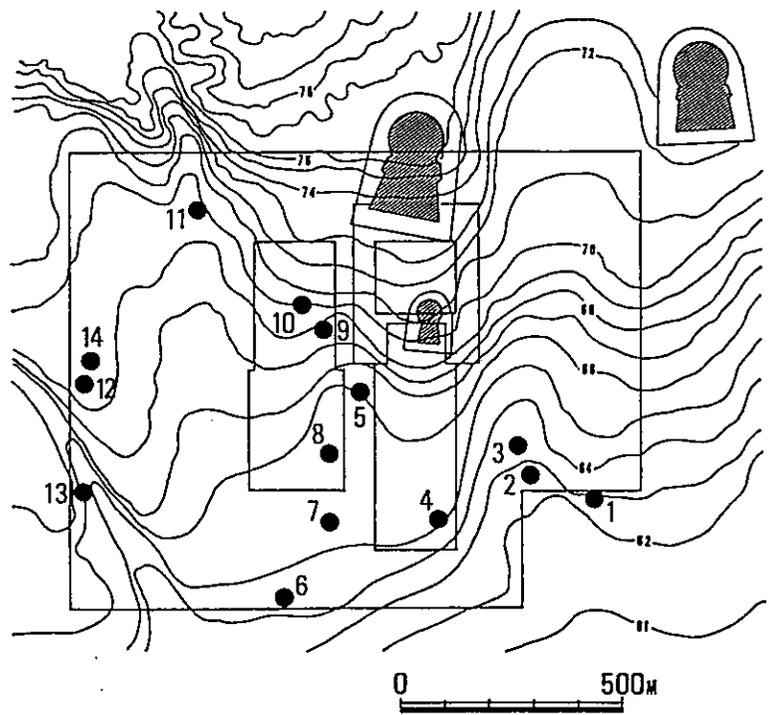
第1図 平城宮第146次調査位置図



第2図 平城宮と平安宮の朝堂院比較図



第4図 指定第一次朝堂院地区の調査経過



第3図 平城宮内の古墳時代主要遺構・遺物(付表参照)

	発掘次数	遺構	遺物	備考
1	120	土 塚	土器	
2	39	S D4992	土器, 木製品	4世紀末~5世紀末
3	43	"、S X5700	"	
4	48	S D6030	土器, 木製品, 埴輪	4世紀末~5世紀
5	97	溝	埴輪	
6	16	土 塚	陶棺	
7	146	竪穴住居跡, 土塚	土器	
8	140	竪穴住居跡, 溝	土器, 埴輪	5世紀前半 5世紀末~6世紀初
9	27	掘立柱建物, 土塚		
10	75	古墳 S X7800	埴輪	5世紀後半
11	101	S D8520 他	土器, 木製品	4世紀
12	25	溝	土器	
13	15	溝	土器	
14	50.51.59.71	溝	土器	

付 表